

# 平成25年度施策評価シート

基本施策	誰もが生涯を通じて自ら学ぶことのできる環境をつくる		
総合計画での位置付け	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	分野	2	生涯学習
主要な計画	・生涯学習振興計画		
基本施策を実施する背景や課題・目的	<p>・近年、自己の知識・技術・経験を高める学習から、より社会、地域づくりにつながる学習への意欲の変化など、生涯学習に対するニーズは、ますます多様化している。</p> <p>・本施策は市民一人ひとりが世代に応じた学習や体験のなかで「ひと」として成長することのできるこころの「ゆたかさ」のあるまちづくりをすすめるため、誰もが生涯を通じて自ら学ぶことのできる環境づくりを目的としている。</p>		

## 1 概要

施策	目的	施策の内容	対象	施策の内容の目的	これまでの取り組み	担当部局
1 学習機会の充実	子どもから大人まで誰もが生涯を通じて学ぶことができるよう、地域や教育機関と連携しながら多様化するニーズに対応した生涯学習の充実を図る。	学習情報の提供や学習方法などの相談	市民	誰もが学ぶ情報を容易に得ることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習カレンダーを発行(隔月)している。</li> <li>・広報たかやま、市ホームページ、メール配信サービスなどを活用し、各種講座等の学習情報の提供を行っている。</li> <li>・公民館等利用団体一覧表を作成し、ホームページに公開している。</li> </ul>	市民活動部
		市民カレッジ、出前講座、公民館講座などの開催	市民	自らを高めたり、学び得た知識などを地域づくりに活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ニーズや社会の要請に応じた各種講座を開催している。</li> </ul>	市民活動部
		優れた技術や専門知識をもつ地域の人材の活用推進	市民	市民が自らの能力や学んだ知識を活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土歴史講座や食育講座などにおいて専門的知識を有する地元講師を活用するなど、知の循環型社会の取り組みをすすめている。</li> </ul>	市民活動部
		教育機関と連携した開放講座や公開講座の開催	市民(児童生徒、地域住民)	開かれた学校づくりに寄与し、各地域における文化の拠り所となる学舎の在りようを探る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校を会場に開催される「子ども体験教室」など、市内全区の児童・生徒や地域の方々を対象とした複数の生涯学習講座を設けている。</li> </ul>	教育委員会
		次代を担う子どもの夢の実現に向けた学習機会の充実	市民	子どもたちが科学を身近に感じたり、最先端の科学にふれることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが科学体験を通じて、夢や好奇心、探究心を自ら育むことができるよう、子ども夢創造事業(科学)を実施している。</li> </ul>	市民活動部
		放送大学岐阜学習センター高山分室の運営	15歳以上の市民	放送大学岐阜学習センター高山分室の適正な管理運営により、市民が目的に応じて学ぶことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のライフスタイルに合わせて学びたいことを学ぶことができる放送大学岐阜学習センター高山分室の管理運営を行っている</li> </ul>	市民活動部
		本や図書館に親しむ機会の充実	市民	図書館の適正な管理運営により、「知の拠点施設」として市民が多様な情報を得て学習することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のニーズに応じた資料の購入や配本、レファレンスサービスの充実に取り組んでいる。</li> </ul>	市民活動部

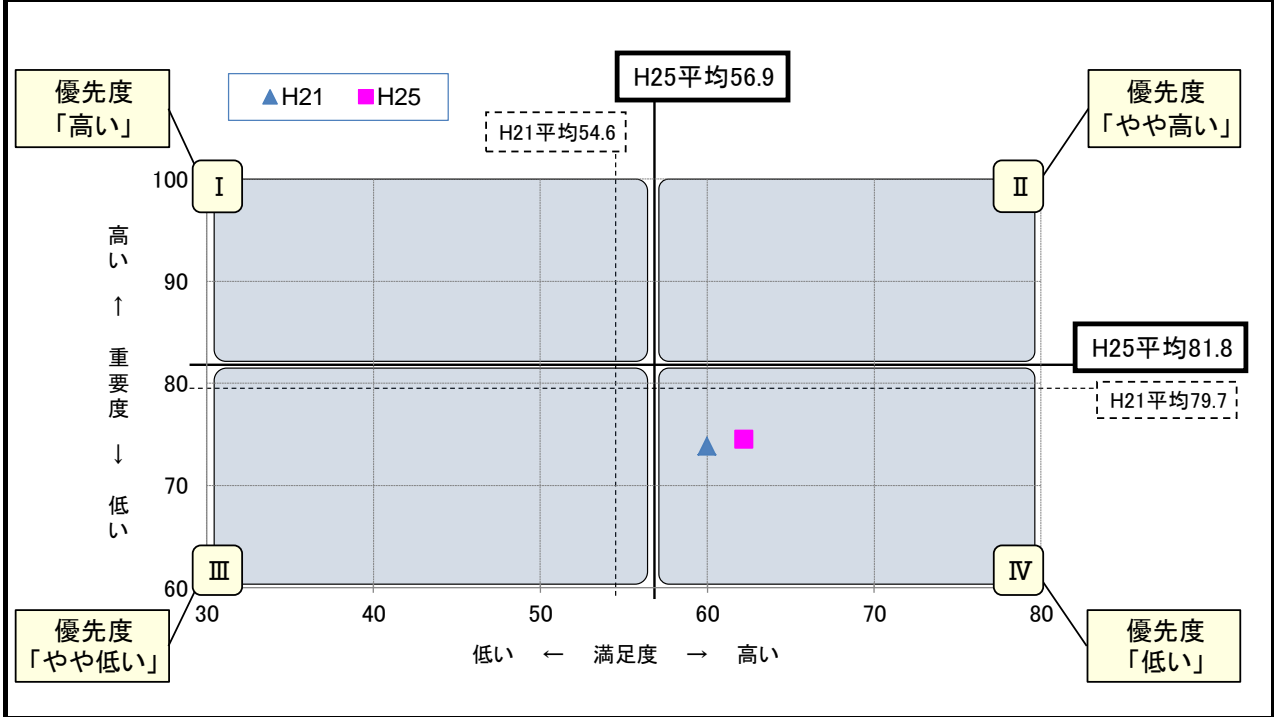
2	学習施設の整備	公民館等の整備、地域活動の拠点となる集会施設などの整備に対する助成などにより、安全で快適に利用できる環境の整備を図る。	ア	公民館や図書館などの施設の整備	市民	生涯学習施設の適正な施設整備により、市民が安全で快適に利用することができる	・定期点検による施設の安全管理や計画的な修繕・改修を行っている。	市民活動部
			イ	施設の利便性の向上と利用の促進	市民	生涯学習施設の適正な管理運営により、市民が安全で快適に利用することができる	・利便性の向上と利用促進に向けて、施設利用者や施設管理者との意見交換会を開催している。	市民活動部
			ウ	地域活動の拠点となる町内会集会施設などの整備に対する助成	市民	・町内会の集会施設の整備に対し助成を行うことで、地域活動の拠点を整備することができる	・町内会集会施設の新築及び改築事業に要する経費の一部に対して補助を行っている。	市民活動部

## 2 指標の推移

指標名	単位	関連 施策	好まし い 方向	H21	H22	H23	H24	目標	指標値の把握方法 目標値設定の考え方
講座開催数	件	1-イ	↓	19	19	12	11	20	
講座受講者数	人	1-イ	↑	825	1,380	818	1,190	1,000	
子ども移動科学館開催数	件	1-オ	→	3	3	3	3	3	毎年3つの小学校を巡回している
子ども移動科学館参加者数	人	1-オ	→	157	128	142	99	120	実績に基づく推定
図書館来館者数	人	1-キ	↑	366,226	364,603	415,771	436,174	380,000	実績に基づく推定
図書貸出点数	点	1-キ	→	557,857	547,887	567,936	553,883	580,000	実績に基づく推定
町内会集会施設整備事業補助金 交付件数	件	2-ウ	→	1	2	2	2	-	・補助金交付件数 ・町内会へのアンケート 結果に基づいて設定
担当部局	補足説明								
市民活動部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども移動科学館は、夏休み期間中に開催。各小学校を巡回するため学校の規模により参加者が増減する。</li> <li>・子どもを対象とした学習機会の充実を図るため、子ども夢創造事業(科学)として平成25年度から事業を拡大している。</li> <li>・町内会集会施設整備事業補助金の交付に際しては、前年度9月末までに計画書等を提出いただき、事前</li> </ul>								

3 市民アンケートの結果

		現在の「満足度」		今後の「重要度」		市民満足度を高めるために改善等を行う優先度	
H21 (前回)	点数	60.0	(平均) (54.6)	73.8	(平均) (79.7)	IV	低い
	順位	42施策中 12 番目		42施策中 33 番目			
H25 (今回)	点数	62.2	(平均) (56.9)	74.5	(平均) (81.8)	IV	低い
	順位	43施策中 7 番目		43施策中 37 番目			



※「満足度」、「重要度」・・・まちづくり市民アンケートに対する各項目の回答件数をもとに点数化した数値

$$\text{満足度} = \frac{(\text{満足}) \times (50) + (\text{やや満足}) \times (25) + (\text{やや不満}) \times (-25) + (\text{不満}) \times (-50)}{(\text{回答数}) - \{(\text{分からない}) + (\text{無回答})\}} + 50$$

$$\text{重要度} = \frac{(\text{重要}) \times (50) + (\text{やや重要}) \times (25) + (\text{あまり重要でない}) \times (-25) + (\text{重要でない}) \times (-50)}{(\text{回答数}) - \{(\text{分からない}) + (\text{無回答})\}} + 50$$

※市民満足度を高めるために改善等を行う優先度

「満足度」が平均未満で「重要度」が平均以上の施策	→	I 優先度が「高い」
「満足度」が平均以上で「重要度」が平均以上の施策	→	II 優先度が「やや高い」
「満足度」が平均未満で「重要度」が平均未満の施策	→	III 優先度が「やや低い」
「満足度」が平均以上で「重要度」が平均未満の施策	→	IV 優先度が「低い」

4 一次評価(担当部局による評価)

担当部局		市民活動部	
施策	施策の内容	七次総合計画における検証(成果や課題)	今後の方向性
学習機会の充実	学習情報の提供や学習方法などの相談	・広報たかやま、市ホームページ、メール配信サービスなどさまざまな媒体を活用することで、誰もが生涯学習情報を容易に得られるようになった。	・さまざまな媒体を通じて、生涯学習情報の提供を行う。
	市民カレッジ、出前講座、公民館講座などの開催	・各種講座終了時にアンケートをお願いしているが、満足度は高い。 ・生涯学習の定義が広範なため、市民ニーズに応じた講座の選択が難しい。 ・社会的生活の充実のための、地域づくり型生涯学習を目指した講座開催が課題となっている。	・多様化するニーズや地域課題に対応した生涯学習講座を開催する。
	優れた技術や専門知識をもつ地域の人材の活用の推進	・郷土歴史講座や食育講座などにおいて、専門的知識を有する地元講師を活用している。 ・人材の基礎データを収集し、生涯学習人材リストの作成をすすめている。	・個々の知識・技術・経験を地域の課題解決に活かす、地域づくり型生涯学習を推進する。
	次代を担う子どもの夢の実現に向けた学習機会の充実	・小学校理科部会の先生と連携し、夏休みに子どもが主体的にものづくりや科学体験ができる講座を開催することにより、子どもたちの好奇心や探究心が高まっている。 ・平成25年度は、科学技術施設の見学ツアーを実施したが、普段入れない施設見学への関心は高い。	・次代を担う子どもの夢の実現に向けた科学体験教室等の機会を充実する。
	放送大学岐阜学習センター高山分室の運営	・入学案内の広報活動や放送大学連携セミナーの開催などにより、新規入学者数が増加している。 ・視聴教材のDVD導入など、利便性を高めている	・岐阜学習センターとの連携のもと、学習環境の充実等高山分室の魅力を強化し、より一層の利用促進を図る
	本や図書館に親しむ機会の充実	・蔵書の充実の他、おはなし会、煥章館セミナー、読書講演会など読書推進事業に力を入れることで、子どもからお年寄りまで市民がさまざまな学習をする機会が増加している。 ・図書館報「図書館だより」やこどもとしょかん「木のくにだより」を毎月発行し、広報活動を充実している。	・利用者のニーズに応じた資料の購入や配本、レファレンスサービスの向上など、本や図書館に親しむ機会の充実を図る。

学習施設の整備	公民館や図書館などの施設の整備	・定期点検による施設の安全管理や計画的な修繕・改修を行うことで、施設の安全性や利便性が向上している。	・生涯学習の拠点となる施設の安全管理の徹底や計画的な修繕・改修を行う。
	施設の利便性の向上と利用の促進	・施設利用者や施設管理者との意見交換会の開催などにより市民の声を聴くことで、利便性の向上に役立っている。	・アンケート調査の実施や意見交換会の開催など、市民ニーズに配慮した施設の運営を行う。
	地域活動の拠点となる町内会集会施設などの整備に対する助成	・補助対象面積について、町内会の世帯規模に応じたものに改めるなど、必要に応じ見直しを行った。 ・町内会の意向を把握するため、今後の建設計画等についてアンケート調査を行い、計画的に支援した。	・引き続き、町内会集会施設の新築及び改築事業に対する補助金を交付し、地域の拠点となる集会施設の整備を支援する。
総括		<p>・個人的生活の充実のための生涯学習の成果を生かしながら、地域団体等での活動を通して身近な地域における課題の解決に役立っていかうとする「地域づくり型生涯学習」の推進に対するニーズが高まっている。</p> <p>・「地域づくり型生涯学習」においては、学習活動(「学び」と地域づくり活動(「実践」とが交互に繰り返して行われることで、人びとが生きがいに満ちた豊かな人生を送ることができるとともに、安全・安心を実感でき、豊かで活力ある地域社会が実現されることを期待している。</p>	

担当部局		教育委員会事務局	
施策	施策の内容	七次総合計画における検証(成果や課題)	今後の方向性
学習機会の充実	教育機関と連携した開放講座や公開講座の開催	<p>・小中学校を会場に開催される「子ども体験教室」など、市内全区の児童・生徒や地域の方々を対象とした複数の生涯学習講座を設けている。</p> <p>・文化・スポーツ等・調理・パソコン等、個のニーズに応じた多様な講座が設けられ、親子で参加する家庭も増えてきているが、現状は、主に小学生の参加が多いため、中学生以上の参加の増加を図る。</p>	<p>・現状を維持し、「子ども体験教室」の更なる講座開設の工夫と参加者を募るための広報に力を注ぐ。</p> <p>・中学生の参加率を上げる為に、部活動の調整を行うなど、更に開かれた学校づくりを進めていく。</p>
総括		<p>・教育機関を生涯学習施設として有効に活用できるシステムの構築と、学習機会の充実、更には多様化するニーズに応じた講座の開催など、誰もが生涯を通じて自ら学ぶことのできる環境を整備する必要がある。</p> <p>・地域活動の拠点となる「子ども教育参画会議」等の開催に向け、学校が地域の課題解決に向けて参画できるように学校行事や部活動の調整を行うなど、更に開かれた学校づくりを進めていく。</p>	

5 二次評価(企画課、総務課、財政課評価)

課題	今後の方向性
<p>主な課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が少ない施設やソフト事業がある。</li> <li>・文化会館など老朽化が進行している施設がある。</li> </ul> <p>ということが上げられる。</p>	<p>市民アンケートの結果、施策に対する現在の満足度が高く、今後の重要度が低くなっているが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりは大切であるため、生涯学習振興計画に基づき、誰もが生涯を通じて学ぶことのできる地域に根ざした生涯学習を推進していく必要がある。</p> <p>特に、利用者ニーズを的確に把握した効果的な事業展開が必要である。</p> <p>また、各施設の老朽化の度合いや利用頻度を踏まえ、統廃合も含めた改修計画を策定し、効率的に整備を進めていく必要がある。</p>

6 外部有識者の評価・意見

七次総合計画における検証に対する評価・意見
<p>・各施策の内容について検証は「～している」とのみ記載され、どの程度の成果が得られたのか不明である。同様に今後の方向性も定性的に今後取り組むことが記載されているだけで、その必要性や重要性等は不明である。</p> <p>・学習機会の提供においては参加状況やニーズの把握に基づく評価、課題抽出が、学習施設の整備では利用状況、老朽化、機能の重複等に基づく評価、課題抽出が、それぞれ必要である。</p> <p>・社会教育の分野は、効果が把握し難いうえに、主催者の都合でプログラムが組まれがちである。検証の内容は現行の施策の実施結果を述べたに過ぎず、課題が明らかにされておらず、的確な評価は難しい。</p>
今後の方向性に対する評価・意見
<p>・学習機会の充実では参加状況やニーズ等に応じた内容の差し替えが、学習施設の整備では利用状況や老朽化、機能の重複等を考慮した施設の統廃合・長期修繕計画が必要である。</p> <p>・また、単なるカルチャースクール受講ではなく、学習効果を発揮・広める機会・仕組み等を設けることで、街づくりや意識啓発等への展開・推進を考えていくことも必要である。</p> <p>・市として取り組まなければならない内容に特化し、カルチャーセンター的なものからは距離を置く必要がある。協働のまちづくりの担い手養成などの機会として活用することも考えるべきであると思う。</p>
その他意見
<p>・主な取り組みが講座の提供、施設の整備であることから、それぞれがどの程度有効なものなのかをモニタリングし、講座や施設の廃止・差し替えも含めどの様な課題があり、どの様に対応していくのかを次期総合計画には明確化すべきである。</p>

【参考】基本施策に関連する予算事業の分析・評価(平成25年度事業評価における担当課評価)

関連 施策	事業 コード	事業名	評価					点数	事業費決算額(千円)	
			市民ニ ズの確 認	市が実 施する必 要性	活動内 容の有 効性	執行方 法の効 率性	政策面 における 評価		H23年度	H24年度
1-イ	94900	生涯学習推進事業費	A	B	B	B	B	60	637	900
1-カ	94910	放送大学高山学習センター運営費	A	A	B	B	A	80	663	647
1-キ	94515	図書館管理費	A	A	B	B	A	80	210,204	165,495
2-ア	94210	文化会館整備事業費	A	A	-	B	A	88	136,666	4,896
2-ア・イ	94325	公民館管理費	A	B	A	B	A	80	54,123	71,067
2-ア・イ	94935	生涯学習施設等管理事業費	A	A	B	B	A	80	8,738	27,699
2-イ	94200	文化会館運営費	A	A	B	B	A	80	105,139	104,540
2-ウ	94915	町内会集会施設整備事業補助金	A	A	B	B	B	70	12,090	29,480

集計	区分	個数					平均点	H23年度	H24年度
	A	8	6	1	0	6	77.25	528,260	404,724
	B	0	2	6	8	2			
	C	0	0	0	0	0			
	-	0	0	1	0	0			